

3月	豊川 愛護モニター報告	モニター区間	豊川：左右岸 6.2km～17.8km 管轄出張所：豊川流域治水出張所
実施日		実施区間	吉田大橋～賀茂橋

3月17日、とうとう宇連ダムの貯水率が0%になった。湖底に溜まった水をポンプで汲み上げて放流するそうだが、それも10日間しか持たないという。もちろん、豊川は宇連ダムだけから流れているのではないから川が干上がることはない。もともと冬の間は水量が少ないから、遠目に眺めているだけでは例年と変わりがないように見える。しかし、牟呂松原頭首工では本流の水量を絞り込み、できる限り牟呂松原用水に水を流しているとのこと。さらに、三上橋付近ではポンプで水を汲み上げ、牟呂用水に水を流している。影響がない訳ではない。

川の様子を見ていると、やはり水位が下がっているところが見受けられる。

その一つは豊川放水路分水堰の上流側だ。ここは潮の干満の影響があるため、通常ならば干潮時に中洲が現れ、潮が高くなると中洲が消える。しかし、最近では大潮の満潮前後を除いては中洲が見えることが常態となっている。

もう一つは三上橋の汲み上げ個所のすぐ上流にある間川だ。ここは潮の干満と関係がない場所なので、その影響がよりはっきりと確認できる。ここでの牟呂用水への汲み上げは

雨が降った後の数日は休止する。その時の間川に現れる砂州と汲み上げを行っている時の砂州の大きさの違いを比べると川の流量が少なくなっていることが容易に確認できる。

日本気象協会によれば、3月下旬にはまとまった雨が予測されている。また、今年の梅雨も大雨が予想されている。

そうあって欲しいと願うばかりだ。



豊川放水路分水堰の上流側

1月にはここまで砂州が現れることはなかった。



間川（豊川との合流地点）

汲み上げを行っている時

このすぐ下流が牟呂用水への汲み上げ地点



汲み上げを行っていない時

砂州がかなり縮小しているのがわかる